

稲 作

「ばか苗病」の撲滅に向けて、対応のご協力をお願いします

北海道米麦改良協会 業務部 技監 相川 宗 嚴

「ばか苗病」は平成24年には道内でも中発生以上の発生事例が目立ちました。本病は種子の指定病害のため、万一、採種ほ場で発生があれば種子として使用できません。近年、東北地方で「ばか苗病」が採種ほ場周辺に発生し採種できなかつた事例がありました。

1 「ばか苗病」の病徴

本病の病徴は育苗期と本田期に分けられます。育苗期では苗の黄化と徒長【写真①】が特徴で、本葉2～3葉期頃からあらわれ、育苗箱内で近くの苗に伝染します。

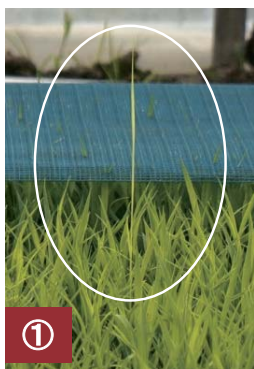
発病苗は移植後間もなく枯死しますが、苗床で発病せず、潜伏感染していた苗は移植後に本田で発病し、徒長症状を示します【写真②③④】。

発病株は出穂前に枯死することが多く【写真⑤】、枯死株の茎、葉鞘、節などには白色～淡紅色の粉状のカビが一面に発生します【写真⑥】。これが病原菌の胞子で、数百メートル飛散して開花期の籾に感染し翌年の伝染源（種子伝染）となります。

2 「ばか苗病」の対応方法

本病は発病後に効果のある防除薬剤はありませんが、的確な種子消毒により防除できます。保菌リスクが高い自家採種は避け、100%採種ほ産の種子を使用し、的確な種子消毒を行うことが肝要です。苗床での発病苗はポット育苗ではポット単位で、マット育苗では発病苗周辺（半径5cm）も含めて土ごと切り取ります。発病苗が多い場合は、育苗箱単位で廃棄します。

本田での発病株は株ごと根付きで抜き取ります。その際【写真⑤】の段階では手遅れなため、【写真②③④】の段階で抜き取り、出穂前に抜き取りを完了します。抜き取った苗・株は、焼却するか、土中に埋めます。



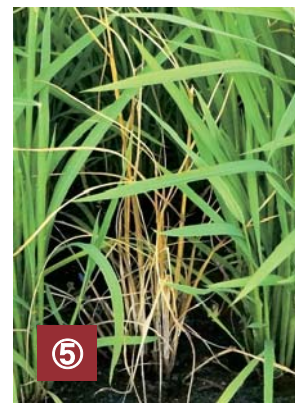
① 苗床での発病



② 本田での発病



③④ 本田での発病

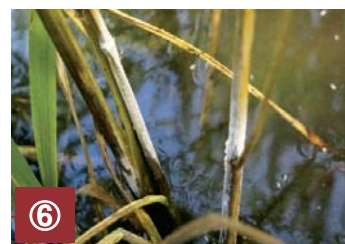


⑤ 出穂前の枯死株

(田村原図)

◆本病の発生が確認された場合や疑わしい場合ならびに苗と本田のチェック等は JA、採種組合、各地区の農業改良普及センターにご相談下さい。

◆不明な点は、北海道米麦改良協会、北海道にご確認ください。



⑥ 枯死株に付いた胞子